

基本的な考え方

ICTは、課題先進国として日本が抱える各種の課題を解決する中核技術であり、センサー、医療・介護、衛星、自動車、農業等の色々な技術と融合、組み合わせることで、世界にない新しい応用分野の開拓を可能とし、「**成長戦略のドライバー**」となるものである。

具体的な進め方

①重点分野の絞り込み

生活資源分野は対象範囲が広いので、「経済効果」、「国民の安心安全への貢献度」、「**新規性、独自性、充足性**」などの視点で対象分野を絞り込むことが必要。

②サービスインテグレーション

個々のサービスを、利用者視点で連携・協調させる**サービスインテグレーション**が必要。また、**複数のサービスが共有するサービスプラットフォーム**の検討も必要。

③規制緩和、規制改革

単なる技術開発に終わらせないためには、当該分野の**規制緩和や公営事業の民営化**などによる市場開放、市場の活性化施策との連動が必要。

④官民の役割分担

準天頂衛星のように社会インフラとしてオールジャパンで整備を進める分野と、民間の活力を生かす分野を明確化し、両者の協調の下で、民間の活力をできる限り生かす事が必要。

⑤対象地域、モデル事業の絞り込み

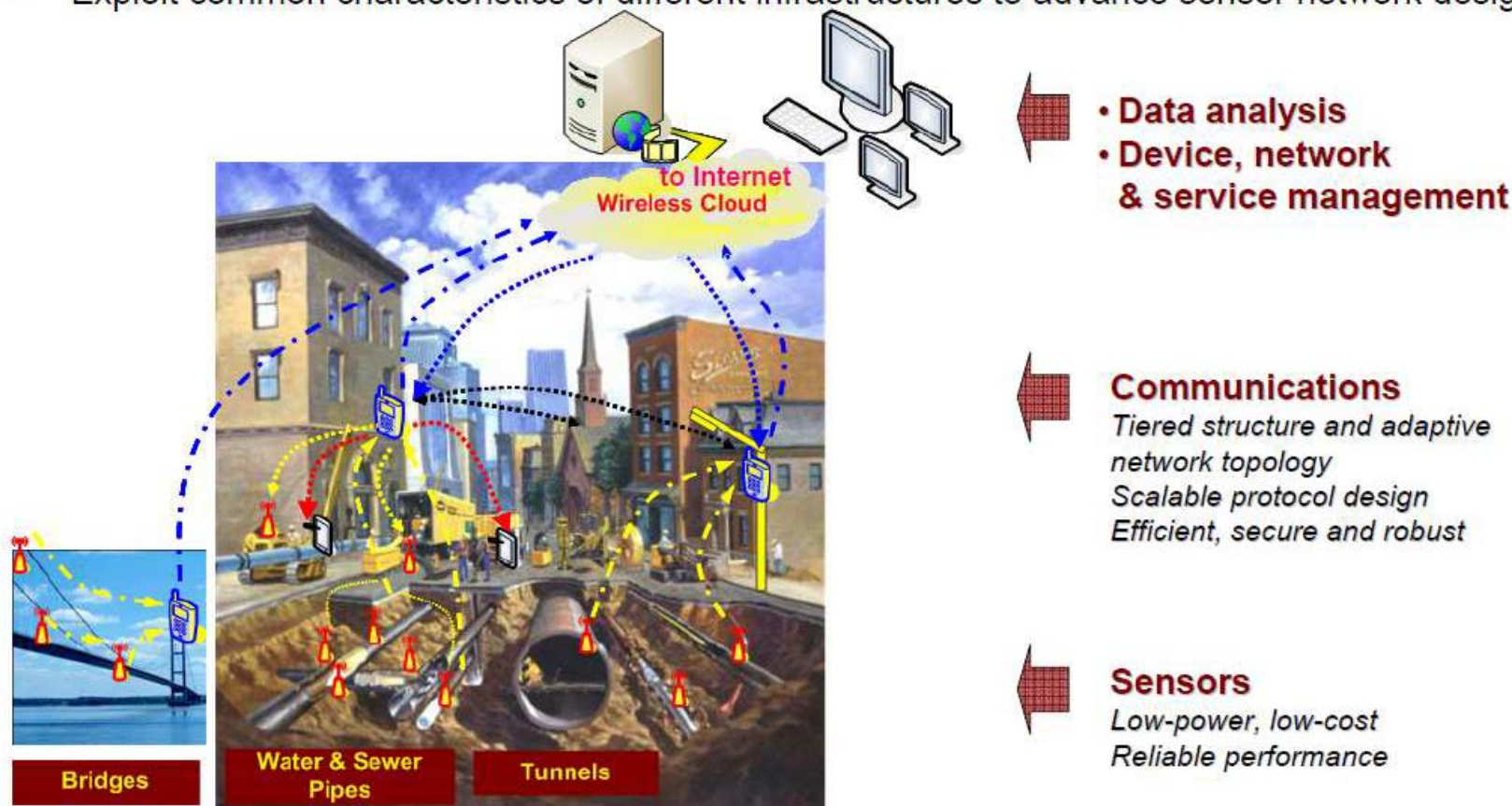
モデル事業などを実施する場合には、対象地域を絞り込み、モデル事業だけに終わらせず、実サービス提供まで**徹底的にやりぬく**ことが必要。

参考：英国のスマートインフラプロジェクト

Smart Infrastructure Wireless sensor network system for condition assessment and monitoring of infrastructure

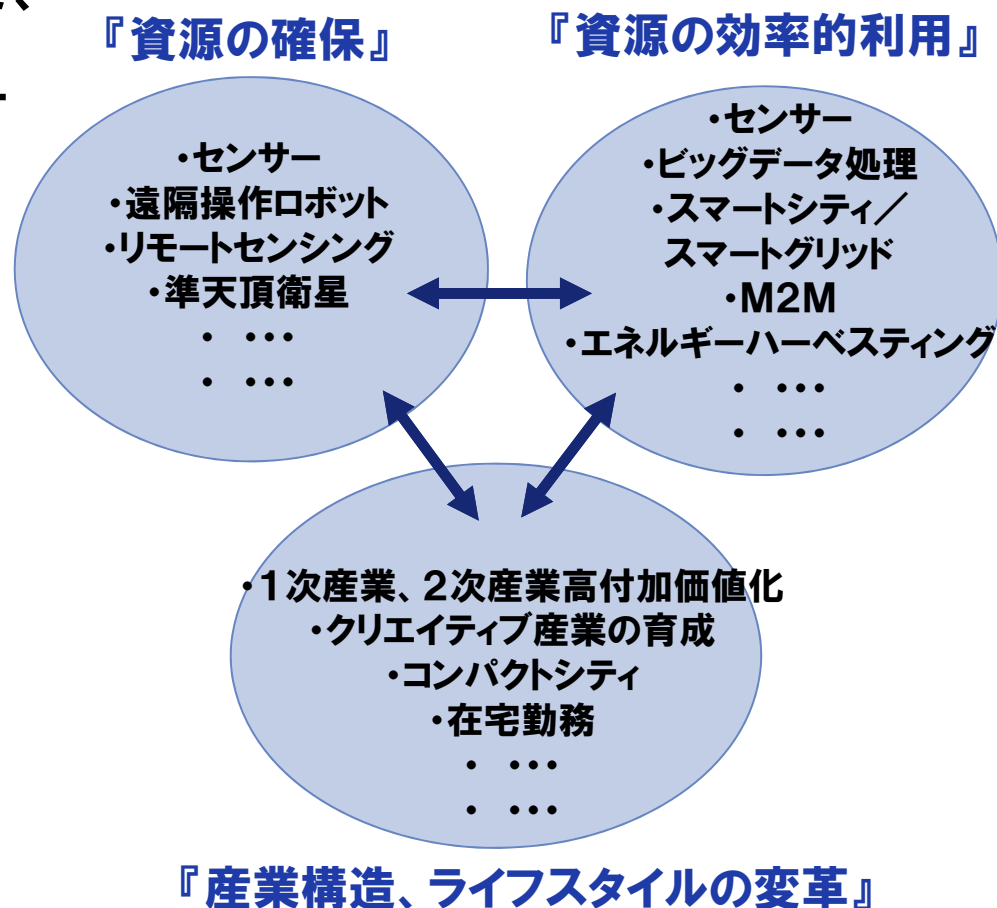
Major goal of this project: Generic/Pervasive sensor networks

- Sharing of equipment for monitoring of multiple types of infrastructures
- Exploit common characteristics of different infrastructures to advance sensor network design



参考：生活資源問題への視点

1. 『資源の確保』、『資源の効率的利用』に加えて、ICTの活用により『産業構造、ライフスタイルの**変革**』を促し、少資源で高付加価値を産み出す社会を構築することが重要。
2. 「準天頂衛星」、「M2Mプラットフォーム」等、**新たな社会インフラの構築**が必要。
3. センサーやエネルギーハーベスティング(※)等の要素技術の組み合わせ(センサー×小電力無線×エネルギーハーベスト×...)による**システム化が重要**。
(これまでになかった企業の組み合わせが有効。)



(※)エネルギーハーベスティング(環境発電)とは、人や物の動き(振動、熱)や光・電波・温度など周りの環境から微小なエネルギーを「収穫(ハーベスティング)」して発電する技術。(ESG用語解説より)